

# 平成27年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成28年3月25日（金）

午前1時～午後5時

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、兼平委員、西川委員、  
花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、  
宮川委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度  
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度  
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

### 【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●22：弘前市民の森で元気になろう／弘前市民の森の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：これまでは、どのような人が参加しているのか。

A：一人暮らしが増えていることもあり、一人暮らしの参加者が増えている。また、健康面などに不安がある人が試しに参加した後も、継続して参加される人もいる。

Q：今まで事業を継続してきた中で、どのような効果が生まれているか。

A：夫婦で参加されている例で、ご主人の病気がいい方向に向かっているとか、参加者同士の交流や人のつながりが生まれている。

Q：このような活動は、スタッフ側も大変だと思うが、会を運営するスタッフが増えたり、入れ替わったりはしているか。

A：事務的なことを決めていくスタッフは同じだが、さまざまな活動をしていく中で、その都度参加者やボランティアの方が協力してくれている。いろいろな発想や意見も出てくると思うので、中心となるスタッフの中にも若い人が入って来てくれれば良いと思う。

【主な意見】

- ・一人暮らしだと一日中誰とも話さない人が多いと思うが、このような場に参加することで生活に張りが出てくると思うので、少しでも参加してくれる人が増えるように周知し

ていただきたい。

- ・座頭石にある石を陶芸のうわぐすりにするなど、地域の資源を活用していて、非常に素晴らしいと思う。
- ・とても良い事業なので、続けていくためにも、医療福祉系の学生とのつながりを持つなど、協力してくれる人が途絶えないようなシステムを考えていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 75.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		75.0

#### ●10：イキイキ健康クラブスマイル／イキイキ健康クラブスマイル

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：毎週体操を行う予定だが、講師は毎回同じ人に依頼する予定か。

A：健康体操やアップル体操なども行う予定で、講師が違う場合もある。市に健幸増進リーダーについて問い合わせたところ、団体が活動できる日に派遣が難しいとのことだったが、今後派遣できる人数が増えて、活動日に派遣してもらえるようになったら活用したい。

Q：スタッフ側が用意したプログラムを受講するだけでなく、参加者からの提案で新たな活動が生まれたという例があれば教えていただきたい。

A：体操の後に意見交換の時間があり、そこで参加者から次にやりたいこと案が出ることもある。例えば折り紙が得意な参加者がいて、ひな祭りの時期にひな人形を折り紙で作ったことがあった。また、今年の実業計画の中で、世代間交流の際に読み聞かせやわらべ歌を歌うといったアイデアを取り入れている。

【主な意見】

- ・介護保険制度の改正などから、地域で高齢者を看ていくことになり、このような高齢者の居場所づくりの事業は非常に大事で、これからどんどん広がっていくと思うので、今後も頑張っていたきたい。
- ・昨年度の審査会で、もっとさまざまな人が参加できるように広げていって欲しいという意見が出ていたが、今年度の申請では参加予定者数も増え、さまざまな人に事業が浸透できそうな工夫がなされていて大変良かったと思う。
- ・健康であるためには、ただ体を動かすのではなく、仲間とのふれあいも大切であり、前述の弘前市民の森の会の事業とも、方法は違うが共通している点がある。市民が自分に合った活動に参加できるように、それぞれのやり方で続けていっていただきたい。

【採択結果】

合計点 77.3 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		77.3

● 21：過疎地域スポーツ推進事業「スポーツゲンキッズ教室」／

特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：スポーツ少年団として登録がないと試合に出場できないことや、単一の小学校区ではないことへの対策について、考えていることがあれば教えていただきたい。

A：今後スポーツ少年団として活動することになれば、地域の住民や指導者、学校関係者との話し合いも必要であるため、市や地区の体育協会と連携していきたい。現在は、さまざまなスポーツを楽しみたい子どもたちに参加してもらっており、勝利至上主義にならないために価値観を変えていくことも大事だと考えている。

Q：自動車での送迎以外に、児童が自転車で会場まで行くことは可能か。

A：青森県の歩行数が日本でもワースト3に入っているので、歩いたり自転車を使ったりしてほしい気持ちもあるが、防犯の問題や保険の問題など、万が一事故が起きた時の責任を誰が持つかという問題があるため、基本的には、送迎バスを使っていただくことになる。

Q：小学校はこの事業にどのように関わっているのか。

A：事業を実施している地域内の小学校の校長先生から現状を聞いたことで、この事業を始めたこともあり、チラシをただまくだけでなく、周知もしてくれている。また、何かあった時に連絡をくれたり、事業実施時に先生たちが様子を見に来てくれるなど、協力してくれている。

### 【主な意見】

- ・事業の対象となる地域は、子どもたちだけでなく、高齢者が病院に行く手段がないなど、さまざまな問題を抱えている分、市街地に比べて地域のつながりが強い面があると思う。今回のように地域外の団体が、問題提起をする形で地域の活動と結びつくことで、地域が元気になっていけばいいと思う。
- ・現在は、スポーツだけを取り上げているが、今後文化系の部活動にも分野を広げてさまざまなところで活動をするなど、子どもたちの選択肢を増やしてあげられるモデルケースになるように頑張りたい。
- ・例えば、高齢者の送迎をこの事業と一緒にやってみるなど、行政の複数の課にまたがった分野の新しい事業を展開することは、NPOの醍醐味・真髄だと思うので、素晴らしい活動だと思う。

### 【採択結果】

合計点 85.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		85.2

● 25：子どもの健康づくり事業／美育・食育 はなか

【質疑応答（抜粋）】

Q：定員を超えた参加希望があった場合、どのように対応するのか。

A：今は先着順で、定員を超えた時点でお断りしている。本来であれば、もっとたくさんの人に体験してもらいたいと思っはいるが、定員の設定をどのくらいにするかが、一番の課題だと考えている。

Q：子どもたちが教室に参加している時の、保護者の参加状況について教えていただきたい。

A：必ず保護者同伴というわけではないが、6割から7割ほどの保護者が一緒に参加していて、積極的にスタッフの手伝いをしてくれており、習ったことを覚えて家でもやってみようという人たちもいる。

【主な意見】

- ・食育だけでなく美育も含まれていて、トータルで感情豊かな人間性を磨くための活動だと思うが、今後も事業を継続していくためには、どの方向に事業を広げていくのかとイメージが大事だと思うし、注目していきたい。
- ・メインで実施する会場が清水交流センターであっても、1年に何回か市街地の会場で実施してみることが、普段の活動の宣伝効果にもなると思う。
- ・今年度の事業を計画するにあたって、昨年度との違いを明確にして、検証した結果を事業内容に反映させていた点が、審査委員会を上手く活用してもらっていて、継続事業としてとてもいいやり方だと思う。

【採択結果】

合計点 75.1 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		75.1

●26：「ひろさき美術館～侍町で逢いましょう」事業／弘前アートプロジェクト実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：アートを見に行ったら個人が弘前の良さを知るきっかけになるだけでなく、この事業の「出口」として、一緒に活動してくれる人を増やしていくための工夫があれば教えていただきたい。

A：弘前で2006年に行われた奈良美智氏のA to Zなど、市民によるボランティアスタッフがたくさん集まって成功している事例があるので、今後、市民にボランティアスタッフとして関わってもらえることができれば、もう少し活動を広げられるようになると思う。

Q：市民が武家屋敷に来てくれるように、公共施設等にポスターを貼る以外に周知方法を工夫している点があれば教えていただきたい。

A：弘前大学と教育委員会に後援依頼をし、教育委員会を通じて各小・中学校にポスターやチラシを配布してもらう予定である。

Q：アート展示期間中、展示作品の管理はどのように行われるのか。

A：開催時間中は、ボランティアや団体メンバーが各武家屋敷に張り付いている。夜間は通常の武家屋敷の管理と同様で、指定管理している業者が施錠を行うことになり、このことは出品者にも了解を得ている。

【主な意見】

- ・自分の興味がないものになかなか足を運ぶことはないが、アートの展示が加わることで、武家屋敷に今は特に興味がなくとも、アートに興味のある人が来場し、場所を知るきっかけとして十分効果的だと思う。
- ・昔の人の暮らしと一緒に古い建物を見せていくよりも、建物の新しい使い方の可能性を見せていったほうが、古い建物の魅力が伝わると思う。
- ・弘前市にはさまざまな趣のある建物があるので、将来的にいろいろなところでこのような事業が広がるように、まず1回目を頑張っていたきたい。
- ・開催期間がねぶたの時期なので、パンフレットやチラシに駅からのアクセス方法を入れるなど、市民だけでなく観光客にも来てもらえるような工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 75.1 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		75.1

● 18 : 大仏公園紫陽花まつり / 石川町会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今まで紫陽花まつりを実施してきて、どのような効果があったと感じているか教えてください。

A : 来園者が増えてきているだけでなく、時期になると町会の中でも紫陽花まつりのことが話題に上るようになってきた。また、特別イベントを開催し始めた初年度から出演してもらっているジャズネットワークには、石川小学校のイベントでも演奏してもらおうなど、祭りとは別の部分での交流や人のつながりができている。

Q : 紫陽花の他にも、大仏公園の魅力を発信できるものはあるか。

A : 大仏公園は桜の公園でもあり、好きな所にごぎを敷くことができ、弘前公園とは違って、ゆったりした気持ちで桜を鑑賞できる。そういった魅力も知ってもらいたいと考えている。

Q : 大鰐線を活用してもらおうために工夫していることがあれば教えてください。

A : 現在は、紫陽花まつりで募集した俳句や短歌を、電車の中に展示してもらおうことで、少しでも人を呼び寄せ、電車に乗ってもらおうという試みをしている。

Q : 町会内で、この事業を継続していけるような後継者のめどは立っているか。

A : 紫陽花まつりは町会の評議員 15 人が中心になって行っており、今年改選で 3 人の若手が入ってきた。我々の代で終わりにならないように、1%システムがあるうちとにかく続けていける形ができるように頑張っていきたい。

【主な意見】



- ・周知方法として、チラシやポスターだけでなく、国道7号線や公園の周辺にのぼりを立てるなど、自動車を通りかかった人にもアピールできるような方法もぜひ考えていただきたい。
- ・市内の地域コミュニティが疲弊している中、石川町会は地域の財産を広めるために活動しており、着実に公園を訪れる人が増えていっているため、今後も活動を継続していただきたい。
- ・大仏公園は、岩木山がきれいに見える写真スポットなので、紫陽花だけではなく、桜や紅葉など、四季折々の風景を写真に収めてもらうことで、写真が好きな人のコミュニティのつながりが生まれれば、もっと大仏公園の魅力を発信できると思う。

**【採択結果】**

合計点 77.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		77.5

3月25日審査結果（27事業のうち6事業）

採択とする事業                    6事業  
 不採択とする事業                0事業

# 平成27年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成28年3月26日（土）  
午前8時50分～午後4時30分  
場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、  
兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、  
齋藤（紀）委員、宮川委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 3月25日に引き続き審査

《審査内容》

- 13：～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業～題「けの汁発祥の地  
和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後445年祭／和徳歴史探偵団

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業の主体は、けの汁の発信なのか、和徳周辺の歴史探訪なのか、宵宮に人を集めることなのか。

A：当初は、宵宮に人を集めるため、和徳城がけの汁発祥の地という諸説を元に、自分達の活動のツールとしてけの汁を発信することにした。活動を続ける中で、けの汁は津軽の歴史であると同時に津軽に根付いた食文化であることに注目し、けの汁コンテストを3年前に始めたが、同時に和徳周辺の歴史も含めた発信もしていきたいとも考えている。

Q：和徳の地域住民は、この事業にどのように関わっているのか。

A：小山内讃岐守没後祭のときに県道沿いにのぼり旗を立てて周知をしてくれたり、町会の婦人部がけの汁のふるまいの下ごしらえをしてくれたり、たくさんの協力を得ている。今後は、地域の歴史探究の部分でも講演会を開くなど、広がりを見せていきたい。

Q：今後、地域をどのように巻き込んでいこうと考えているか、教えていただきたい。

A：歴史の面から地域を一体化していこうと思っており、今年はず、これまで小山内讃岐守没後祭で配ってきたマップを和徳小学校の全児童に配布することで、子どもたちに地域の良さを再発見してもらいたいと考えている。

### 【主な意見】

- ・地域の歴史を探求したり、歴史を子どもたちや地域住民が知ることとても大切なことなので、冊子やパンフレットを活用して、地域住民に歴史を知ってもらうことに力を入

れていただきたい。

- ・けの汁発祥の地と謳っている以上は、地元からもっと盛り上がり、和徳の地域内での汁が定着していくような仕掛けを考えていただきたい。
- ・今年、小学校にカレンダーやマップを配ることで、学校との連携が強まって事業に巻き込みやすくなる可能性があると思う。

**【採択結果】**

合計点 70.9 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合 計		70.9

● 1 : 市民健康増進事業「第5回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」

／弘前歩こう会

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : すごく魅力的な事業で、企業協賛がすぐ集まりそうな気がするが、どのようなところに協賛の声がけをしているか。

A : 以前、市内の企業やスポーツ用品店に協賛を依頼したが難しいという話だったことから、スポーツ用品のメーカーに声掛けをしたが、企業広告が入ったポスターやチラシは、掲示してもらえない場所もあり、企業名を出せないことで実現に至っていない。プログラムに広告を入れるなどの工夫をすることで、今後対応していきたいと考えている。

**【主な意見】**

- ・スカイラインの絶景を見ながら楽しめることに加えて、健康増進の面をアピールすることで、スポーツとは別分野の企業からも協賛を得られる可能性があると思う。
- ・封筒に広告を載せたり、現物支給してもらえような協賛方法もあると思う。

【採択結果】

合計点 76.2 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合 計		76.2

● 2 : 青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第3回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」/時敏地区青少年育成委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q: 講師謝礼の経費が予算の6割を占めているが、今後自立して事業を行っていくために、講師謝礼をどのようにしていくか、考えていることがあれば教えてください。

A: この事業は、普段子どもたちが目にすることのない弘前を代表する技術を見てもらうこと、弘前の流派の伝統文化を子どもたちが体験すること、昔の遊びを体験してもらいながら地域の人と交流することの3つに分かれている。昔の遊びに関しては、既に地域の人がボランティアで参加しているが、今のところ本物を子どもたちに見せるという部分で講師謝礼がかかっており、今後の課題となっている。

Q: 実技体験は、子どもたちから事前に希望を取っているのか。また、複数の体験は可能か。

A: 子どもたちから事前に希望は取っており、流派の違いなども詳しく体験してもらうため、紙ひこうきや華道以外は原則複数の体験はできない。

Q: 他の地区の状況について考えていることがあれば、教えてください。

A: 子どもふれあい活動支援事業を活用することで、毎年体験できる内容を変える形にし、ほかの地域にもこういった活動が広がって欲しいと考えている。

Q: 将来的に、教える文化の種類を増やしていく考えはあるか。

A：伝統工芸といわれるものを体験してもらいたいが、材料費が非常にかかるので、参加費を取らないで実施するためには時間が必要である。まずは、「道」のつくものすべてを子どもたちに見せ、それから、時敏地区にある伝統工芸のお店を紹介していきたいと考えている。

### 【主な意見】

- ・子どもたちに教える上で、本物を見せることは非常に大事なことだと思う。このような機会に接して、子どもたちが津軽の本物に目覚めていってくれればいいと思う。
- ・ボランティアに頼ることで経費は削減されるが、きちんとプロの人に謝礼を払うことによって事業が継続できる面もあると思う。謝礼の経費が大きい部分が気になるところではあるが、まだ事業が走り始めたところなので、必要経費として見ても良いと思う。
- ・事業を継続していく中で、ボランティア講師を増やしていくのか、または違う資金面を工夫するのか、次のステップを検討していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 74.6 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		74.6

### ● 7：乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動／乳井町おこし協力会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業を継続してきて、活動がどの程度構成員以外の人に広がり、若い層・地域住民を巻き込むことができているか教えていただきたい。

A：整備には何日間も要しているため、地区の公民館や消防、子ども会、老人クラブなど、町会にあるほとんどの団体に案内をして、みんなで活動している。

Q:現在の事業は整備と歴史を知る会の2本立てになっているが、里山の整備から始まり、将来活動を上げていく上で、どちらに重点をおくのか。

A:5年かけて整備をしてきたので、将来的には草刈り等はボランティアで行っていきたいと考えている。最近では地域の外からも茶臼館に登りに来る人が増えているので、乳井内の遺跡などをつなげた道に標識を立てて、自由に歩けるコースにしていくなど、誰でも楽しみながら歴史を知ることのできる機会を提供したいと考えている。

#### 【主な意見】

- ・かなり整備も進み、いろいろなものが発展していると思うので、整備のように継続性のあるものは、材料費的な部分について1%システムで補助を続けても良いと思う。
- ・地域住民で力を合わせて作業をしていて、理想的な地域だと思う。
- ・自然環境の中での作業になるため、苦勞する部分もあるかと思うが、元の状態に戻さないためにも、手を休めることなく事業を行っていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 81.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		81.7

#### ●9:弘前さくらコンサート Vol.2/Rainbow Muse Hirosaki

##### 【質疑応答(抜粋)】

Q:有料の鑑賞者が、昨年は180名程度で、今回は700名を見込んでいるということだが、鑑賞者を集めるために具体的にどのような工夫をされるのか。

A:昨年実施したことでサポーターが増え、力を借りることができる。また、今年は市内の小・中学校の全校生徒にチラシを配布する。小中学生は無料招待であるが、家族が同行することを考えると、700人は見込めるとしている。また、コンサートに小学校の吹奏

楽部を巻き込むなど、内容面でも鑑賞者を集める工夫をしている。

Q：現時点で、市内のピアノ指導者や学習者とはどのように結びついているか教えていただきたい。

A：市内の大小あるピアノ教室の先生方にもっと関わって欲しいという気持ちがあり、先生たちがつながっていくことで、子どもたちが上手くなることにもつながると思うので、昨年よりも多くのピアノ教室に出演交渉をしている。出演が難しくても、まずは、できるところまで頑張って、ほかの人の演奏を聴いてもらい、次回は自分も出てみたいと思ってほしい。

Q：コンサート終了後に広がるような仕掛けが大事だと思うが、鑑賞者に継続的に情報提供をするなど、将来的に考えていることがあれば教えていただきたい。

A：鑑賞者に住所を書いてもらって、書いてくれた人には案内を出していきたいと考えている。Facebook を活用しての周知は行っているなので、継続していく。

#### 【主な意見】

- ・小中学生の無料招待やピアノ教室をつなげることは、弘前市の音楽レベルを上げる観点から考えると、非常に素晴らしい取り組みだと思う。
- ・市民会館のピアノは、年間の稼働率があまり高くないので、利用できる機会が増えるためにも頑張っていたきたい。
- ・弘前市は文化都市であることから、本物のピアノで一流の音楽を提供するというコンサートのコンセプトを貫いていただきたい。
- ・協賛金なども集めているので、将来的に観覧者が一定数以上入るようになれば、補助金がなくても実施できる事業になっていくと思うので、その時までには補助金で支えていければと思う。

#### 【採択結果】

合計点 70.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		70.9

● 12 : 第5回こぎんフェス/こぎんフェス実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回は、原点に戻ってこぎんの歴史を伝えることを事業内容に取り入れたいと思うのだが、過去4回の中で、何か歴史を伝えるようなことを行っていけば教えていただきたい。

A : これまでも、こぎんについての講演会などで、歴史や成り立ち、背景などを伝えてきた。今年は、日時を指定して行う講演会だけでなく、目で見ても分かるように文字や図にして、来場者にいつでも見てもらえるようにパネルを展示したいと思う。

Q : こぎん刺し自体の課題をどのように捉えており、この事業とどのように関わると考えているか教えていただきたい。

A : 古作こぎんの価値を知らずに捨てられてしまうことがあるので、そういったものを掘り起こして保管していければいいと思う。また、こぎん刺しのようなものをこぎん刺しと称して販売していることがあるので、チェックできるようにしたい。現在は、こぎんを刺す人自体が増えているので、この波を逃さないようにこぎん文化を広めたいと考えている。

Q : 本来のこぎん刺しとこぎん刺しのようなものについての話があったが、団体としては、新しいものと伝統的なものに対するスタンスを、どのように考えているのか。

A : こぎん刺しや刺しゅうブームによって良い波が来ているので、上手に棲み分けしながら、伝統的なものと新しいものとの線引きをきちんとして、伝統的な部分も守っていききたい。

【主な意見】

・こぎん刺しが刺されたものを持つ人が増えている今だからこそ、津軽の人間としてこぎん



刺しの事をしっかり知っておくべきだと思うので、この機会にこぎん刺しについて多くの市民に知ってもらえるように頑張っていたきたい。

- ・最近さまざまな場所でこぎん刺しのワークショップが行われていて、初心者がこぎん刺しを継承し始めているほか、草木染や金糸を使ってアクセサリーのようなものが作られたり、県外からも注目を浴びたりと波及性があることから、新しいこぎんのガイドラインを作り、より基準を明確にする方法も作っていったきたい。

**【採択結果】**

合計点 76.5 点  $\geq$ 60.0 点

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		76.5

● 11：農園が変わる 集いの広場へ／北地区コミュニティ会議

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q：向外瀬は、藩政時代は薬の栽培で有名だったが、当時の農業を再現するようなことを考えているか。

A：農法を再現するとなるとなかなか難しい。子どもたちが一番喜ぶのがジャガイモ掘りや大根掘りなので、子どもたちが喜ぶものをまずはやっていきたい。

Q：昨年、畑を借りた人が少なかった要因は何か。

A：町会に住む半分近くが、元からこの地域に住んでいた世帯で、自分の畑がある人が多い。新しく団地などに引っ越してきた人や、近隣の青山・宮園に住んでいる人に借りてもらえるようにしたい。

Q：町会以外の人に、農園を貸し出すことは検討できるか。

A：向外瀬町会の所有地であるため、町会内で検討し、貸し出ししていきたいと思う。

## 【主な意見】

- ・一緒に農作業をして、畑の手入れをして、収穫したものを一緒に食べながら会話をし、という一連のプロセスが、高齢者の見守りや地域の交流につながるあらゆる要素が含まれている素晴らしい活動で、それを通じてコミュニティがよりしっかりしたものになっていくと思う。
- ・北地区コミュニティ会議としての申請なので、コミュニティ全体で畑を活用できるようにしていただきながら、たくさんの人が集える農園になっていけば素晴らしいと思う。

## 【採択結果】

合計点 75.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		75.4

## ● 27：向外瀬町会 藩政時代へ旅する／向外瀬町会

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：補助金を希望する年数を2年と予定しているが、どのように事業を展開していこうと考えているか教えていただきたい。

A：向外瀬町会は引っ越してきた人が多く、町会の世帯数も増えている。この地域のことを知らずに住んでいる人に、向外瀬はどのような地域であるかを共有してもらうためにも、古文書などを読み解いて、先人の考えていたことを掘り起していきたい。今年1年で方向性を見定め、来年はそれを肉付けして記録にまとめることができれば、3年目以降は町会のみならず同じ方向に向かって進んでいくことができると考えている。

Q：長年向外瀬に住んでいる人と、新たに居を構えた人との間には、地域に対する思いの温度差があると思うが、地域の歴史や背景などを知ってもらうことで、どのように地域の活性化につなげようと考えているか。

A：新たに住まうことになった人に、向外瀬の素晴らしい部分を伝えていくことで、住んでみたらとてもいい場所だったと少しでも思ってもらいたい。このことが、地域の行事などに参加してもらうことにつながり、前から住んでいる人との思いの差を縮めていけるような、接着剤のような役割を果たしてくれると思う。

**【主な意見】**

- ・今回文献を読み解くことで、向外瀬だけでなく、弘前市にとっても重要なことが発見される可能性もあるので、非常に楽しい事業である。
- ・自分が住んでいる場所の成り立ちなどを知っている人は少なくなっているので、このような取り組みをマスコミに取り上げてもらうなどして、ほかの地域にも広がっていけばいいと感じた。
- ・冊子を作るときは、いわゆる記念写真などが多く掲載される記念誌ではなく、地域住民に声をかけて資料を集めてみるなど、地域の歴史を記録するような内容になるように気を付けていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 74.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		74.2

● 8：弘前城の何でも歴史名人になろう。／南大町町会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：子どもたちが歴史について、聞いていて楽しめるような工夫があれば教えていただきたい。

A：弘前公園の中にあるパワースポットやミステリーゾーンなど、子どもたちが興味・関心を持ってくれるようなものを取り入れたり、クイズをしたりして子どもたちが飽きない

ようにしたい。

Q：子どもたちの世代間交流や、弘前のことを知ってもらうきっかけのために、町会として目指している方向があれば教えていただきたい。

A：自分たちの地域はなかなか町会の行事に参加したがない人もいるので、地域でこういうことを企画したということできざまな年代の人に参加してもらって、子どもも大人も一緒に弘前のことを学んでもらいたいと思う。

#### 【主な意見】

- ・弘前を離れて弘前の良さを語れる人はあまり多くないと思うので、弘前の特徴をアピールできるような人を少しでも増やせるように頑張っていたきたい。
- ・交通手段として、大型バスではなく路線バスや100円バスを利用したり、公園の中でみんな一緒に昼食をとって交流を図るなど、事業の中身に工夫をしていただきたい。
- ・貸切バスを使うのであれば、バスの中で参加者が一体となってクイズ大会を行うなど、単なる移動手段にするのではなく、移動時間を上手く使う方法を考えていただきたい。
- ・この事業から、子どもたちに対することだけでなく、町会が抱えている問題があって、それをなんとかしたいという思いが伝わってきたが、事業内容については、この審査会の場で出た意見をもとに、町会でも再度検討のうえ実施していただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 60.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.4
合 計		60.8

● 19：「うまれる」「ずっといっしょ」映画上映会／SEEDS NETWORK

【質疑応答（抜粋）】

Q：映画を上映するのは別の日に、参加者に呼びかけてワークショップなどを行う予定はあるか。

A：団体で、年に1回交流会を開催しているので、その場を活用して映画の話などもできるようにしたい。

Q：会場は文化センター中会議室だが、一番後ろの席からも映画が見られるような工夫など、会場づくりで考えていることがあれば教えていただきたい。

A：席を会場にびっしりと作らずに、会場内に託児スペースを作ったり、寝台車・車いす・ベビーカーがそのまま入ることができるように、余裕のあるレイアウトにする予定である。

Q：想定人数（120人）を超えた場合、入場制限をするのか。

A：120人は、少なく見積もった人数なので、それ以上になっても入場制限することなく対応できると思う。

【主な意見】

- ・こういった内容の映画を上映することは大賛成で、もし想定を超えるような人数が来場した場合でも、入場制限することなく、できるだけ対応していただきたい。
- ・会場の選び方も、見込みの来場者数に合わせて会場費が高くない場所を選定するなど、ギリギリの予算を組まれており良いと思う。

【採択結果】

合計点 74.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		74.9

3月26日審査結果（27事業のうち10事業）

採択とする事業	10事業
不採択とする事業	0事業

# 平成27年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成28年3月27日（日）  
午前8時50分～午後4時30分  
場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、  
兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、  
齋藤（紀）委員、宮川委員、木田委員  
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事  
成田主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 3月25日・26日に引き続き審査

《審査内容》

### ●3：弘前駅前遊歩道賑わい祭 HIROSAKI JAZZ STREET 2016／

弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：目標としている額の協賛金を集める見通しはあるか。

A：昨年協賛してもらえなかったところから、今年の開催予定を聞かれるなどの反響があり、昨年の実施時よりも準備期間に余裕をもって動くことができるため、自分たちで足を使い、目標額の協賛金を集めていきたい。

Q：JAZZ DAY当日だけ駅前周辺が賑わうのではなく、年間を通して賑わうような工夫を考えていれば教えていただきたい。

A：駅前公園は、冬期間はただの雪捨て場になっているので、昨年度から雪灯籠まつり期間に駅前公園と遊歩道にかまくらを作った。また、弘前バル街に参加している駅前の店舗があっても、鍛冶町が中心になってしまう傾向があるので、昨年同様、10月ごろに駅前バルを開催したいと考えている。このようなイベントを、年間を通していくつか行っていきたいと考えている。

Q：昨年の事業実施前と比べて、店に来る客層などに変化を感じているか。

A：昨年のイベント日の1週間ほど前から、イベントに関する問い合わせがかなりあり、注目を浴びていると感じることがあった。まだ1回しか開催していないので、新しい客層が生まれているような目に見えた変化はないが、商店街の中では、イベント当日またはその後少しではあるが、何かしらの変化を感じていたようである。

#### 【主な意見】

- ・実際に演奏する人を実行委員会内に加えれば、その人のネットワークを活用して、さらに新たな展開が出来ると思うので、今後検討していただきたい。
- ・去年の盛況だった様子を見て、周りの人たちの中にも参加したい人が出てくると思う。「このままではいけない」という想いを持った人たちが集まって組織を作り、アクションを起こすことは素晴らしいと思う。

**【採択結果】**

合計点 82.2 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		82.2

● 4 : もったいない食育学習出前講座／特定非営利活動法人もったいないつがるの会  
【質疑応答(抜粋)】

Q : 保育園の保育士や、幼稚園の先生たちの理解を得て、園の年間計画に組み込んでもらってから取り組んだほうが効果が高まるように感じるが、団体の考えをお知らせいただきたい。

A : 幼稚園は、文部科学省の教育要領などがからんでくるので、保育園で行うことを中心に考えている。毎日給食や弁当の残飯が出るので、保育園では園長先生が「やりたい」と判断すれば、すぐにでも堆肥づくりに取り組むことができる。また、子どもたちには、長続きして欲しいので、「勉強」とは言わずに遊びながら取り組んでもらうようにしている。

Q : この事業の主なコンセプトは何か。

A : 東京の小学校で、ミミズコンポストでの堆肥づくりから野菜づくりまで行ったことで荒れる中学校が少なくなったという話や、ドイツでは40年前から幼稚園のカリキュラムに環境問題が組み込まれているという話を聞き、小さいうちから子どもたちに学んでもらう重要性を感じた。最終的には、地球を温暖化から守る「戦士」を作り上げる、そのきっかけ



けとしてこの事業を考えている。

**【主な意見】**

- ・ごみ問題の中でも、特に問題となっている燃やせるごみを減らすために、市も動き始めたところである。しかし、市民活動団体の中で、ごみ減少に向けた取り組みを1%システムに申請してきている団体はほかにはないので、頑張ってください。
- ・小さな子どもは無心で何かを刻んだりかき混ぜたりということが好きなので、そのような感覚を小さいうちに養ってもらえればいいと思う。また、小学校に入ってからダンボールコンポストの役割を学ば、子どもたちも理解できると思うので、保育園からダンボールコンポストに取り組むことは良いことだと思う。
- ・園児が対象であることから、不信感を持たれないように使用する器具等を清潔に保つなど、衛生面に配慮していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 69.7 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点（齋藤（秀）委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		69.7

● 14：津軽カタリスト 太宰治ドラマリーディング定期公演 事業／津軽カタリスト

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：ドラマリーディングを小学校や中学校で行うことはできるか。

A：弘前ではまだ団体の知名度があまり高くないので行ったことはないが、過去に他市の小学校の、芸術鑑賞の授業で行ったことがあり、子どもたちも一緒に参加して「走れメロス」を、声を出して読むという体験をしてもらった。

Q：定期公演だけでなく、さまざま団体と連携して「共催」の形で大きな会場で行うことによって、より充実した活動ができると感じたが、団体ではどのように考えているか。

A：団体の実力がもっと備わってから、さまざまな団体に声をかけていきたい。将来的には様々な団体と連携して活動をしていきたいと考えている。

Q：現在取り上げている題材は、太宰の作品のみか。

A：もともと斜陽館で活動しており、活動の拠点を移した場所が太宰治 まなびの家だったことから、定期公演では太宰の作品をメインに考えているが、レパートリーは広く、違うこともやってみたいと思っている。

### 【主な意見】

- ・弘前市出身の寺山修司や、石坂洋次郎の作品にも、ドラマリーディングに合いそうな作品があるので、太宰だけでなく、彼らの作品も取り上げていただきたい。
- ・生でドラマリーディングを初めて聴き、ぜひ小・中学生に聴かせてあげたいと感じた。学校関係者も団体の事を知らない人が多いと思うので、学校などにも宣伝していただきたい。
- ・映像を流す方法に課題はあるが、土手町の路上や公的スペースで行われるイベントに参加するなどして、広く告知できればいいのではないかと感じた。

### 【採択結果】

合計点 80.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		80.9

● 20：みんなで、「サウンド・オブ・ミュージック」(ミュージカル)を歌おう！／

弘前ねむの会ファミリーコーラス

【質疑応答（抜粋）】

Q：いろいろな子どもたちが参加してみようという気持ちになるような工夫があればお知らせいただきたい。

A：初めに目指すところは、学校帰りに歌を口ずさむように楽しんでもらいたいということである。音が外れても口を大きく開いていたらほめるなど、子どもが持っている個性を受け入れて、いいところを引き出していけるように、みんなが楽しめるように考えながら、一人ひとりに寄り添っていきたいと思う。

Q：ミュージカルの中に取り入れている英語や手話を子どもたちに教える際に工夫していることがあればお知らせいただきたい。

A：ろう者の方との出会いがきっかけで、歌の表現の中に手話を取り入れるようになり、本を読んだり、青森県聴覚障害者情報センターに通ったりなどして勉強してきている。手話の世界も時代とともに変わっていると思うので、ろう者の方ともコミュニケーションを取りながら、何かを作り上げていければいいと考えている。

【主な意見】

- ・弘前では、合唱をする若い人が出てきていない状況なので、このように歌う機会を作ることで、合唱をしたいという子どもを少しでも増やしていただきたい。
- ・練習の中には、歌うための体力作りだけでなく、あいさつや礼儀作法といった面も取り入れられ、人間形成にも取り組んでいる事業なので、ぜひ弘前に定着していってほしいと思う。

【採択結果】

合計点 74.6 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		74.6

●6：若葉町会納涼祭り／若葉町会

※プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：来年以降、1%システムへの申請はしない予定になっているが、当初の目的はどのくらい達成されたのか。

A：「子ども会を作る」ために、子どもの名簿を作成したいといった点は、個人情報の問題から難しかったようだが、祭りの準備に子どもが参加したり、催しの中のダンスに子どもが参加してくれるなど、祭りを盛り上げる側にも子どもが入ってくれていると伺っている。

【主な意見】

・子どもたちに、準備や本番のダンスに参加してもらうことで、達成感も味わってもらえるようにしており、子どもの育成にも力を入れていると思う。

【採択結果】

合計点 70.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		70.9

●15：ラベンダーロード再生事業／相馬地区小・中学校PTA連絡協議会

※プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：地区の中にJAがあるが、事業には関わっているか。

A：JA相馬村の方が、植栽の手伝いで参加している。また、小中学生以外には、PTAや地域の老人クラブ、婦人部なども参加していて、地域を巻き込もうと声掛けしていると伺っている。

Q：目的である「世代間交流」は、植栽作業で図られているか。

A：昨年事業を見に行った様子では、小学生と中学生を混ぜた班編成になっており、そこに大人の人たちが入って植栽の補助などをしていたので、それぞれ作業をしながら、交流が図られていた。

【主な意見】

- ・環境整備という観点も含めて、地区の老人クラブや婦人部などへの協力をたくさん募っていただきたい。
- ・植えっぱなしではなく、さまざまな組織を巻き込み、コミュニケーションを図りながら継続して管理をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 71.4 点  $\geq$ 60.0 点

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		71.4

- 17：中心6商店街 接客英会話 無料セミナー・観光 英語ボランティア 事業／  
弘前市英会話サークル Globish

【質疑応答 (抜粋)】

Q：この事業における団体の役割は、セミナーを開催するほかに、観光ボランティア活動も含まれるのか。

A：ボランティア活動の時には、英語で会話ができる人とあまりできない人でペアを組ませるなど、英語力に応じてグループ分けをすることも、団体の方で行う。

Q：観光ボランティア活動は、主にどこで行うのか。

A：さくらまつりの時は、主に弘前公園の中で行うことを考えている。来年度以降は、要

望や必要性に応じて、駅前などに活動を広げていくことも考えていきたい。

Q：中国や韓国からの留学生との交流があれば、ボランティアの際に中国語や韓国語でのサポートを依頼できると思うが、中国や韓国からの留学生との連携は考えているか。

A：当団体は英会話サークルという位置づけなので、英語を話すという方向性で行っているし、中国や韓国からの旅行者とは、片言の英語同士でも話が伝わると思う。また、中国語や韓国語のサークルも弘前市内にあると思うので、この事業が上手くいけば、ほかのサークルと横のつながりをもって、一緒に盛り上げていきたいと思う。

### 【主な意見】

- ・外国人観光客に弘前に来てほしいと言っても、実際に来てくれた外国人にとって、弘前はまだまだ優しくない街なので、外国人に対して優しく接することができる市民を増やしていく役割を果たしていただきたい。
- ・毎年さくらまつりの時期に、弘前駅から弘前公園までに行く方法がわからず困っている外国人観光客を見かけるので、人数に余裕があれば、弘前駅前にも人員を配置できるように考えていただきたい。
- ・英会話の高いレベルを求めているものではないとのことなので、ハードルが低いことを前面に出して、誰でも気軽に参加してもらえるようにしていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 85.3 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合 計		85.3

## ● 23：自然を感じるキャンドルコンサート／

「自然を感じるキャンドルコンサート」実行委員会

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業の中核となるものは何であると考えているか。

A：キャンドルを使うことで電気を使わない自然のものの良さを知ることや、グラスハーブとスティールパンのやさしい音色に触れられる癒しの場を提供し、身近なものを見直すことのきっかけにしてみたい。

Q：学生の団体なので、毎年構成員が卒業していくことになるが、後継者の目途は立っているか。

A：1～4年の学生が一緒に行く企画であり、来年は今年の3分の2ほどが残る予定である。来年度以降は新1年生と残る構成員で、今年の経験やアンケートの結果などを踏まえ、積極的に継続開催していきたいと思っている。

### 【主な意見】

- ・スティールパンもグラスハーブも、聴く機会があまり多くない楽器なので、その2つを弘前で聴けることは貴重だと思う。この資源を弘前の市民にいろいろな機会をもって広げていただきたい。
- ・別の大きなイベントと日にちが重なることで、参加者が減る可能性もあるため、開催日を再度検討したほうがいいと思う。
- ・地域に関わることに積極的な学生が増えている中で、このようなイベントに別の学生が参加することによって、学生同士のつながりをどんどん作ってほしいし、その姿が後輩にも伝わって、またチャレンジする人が増えればいいと思う。
- ・弘前でこの事業を行うことの意味をもっとみんなで話し合っ、考えぬいて欲しいと思う。

### 【採択結果】

合計点 75.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		75.2

● 5 : 「第4回世界一の桜並木道をノルディック・ウォーク」 /

青森県ノルディック・ウォーク連盟

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 弘前以外から来た人は、どのようなスケジュールで参加しているのか。

A : ほとんどの参加者は、弘前市と日帰りできる周辺市町村からの参加で、日帰りが多い。旅行会社を通しての参加者の宿泊状況は把握できていないが、県外からの参加者には、できるだけ宿泊して欲しいということもあり、前日に交流会を行っており、20人ほどは嶽温泉や岩木青少年スポーツセンターに宿泊している。

Q : 桜の時期以外にもそれぞれの季節で定期的開催したり、もっと日常的なものとして定着させるようなアイデアがあれば教えていただきたい。

A : 町会などそれぞれの団体で体験したいという人がいれば、出向いて体験してもらっている。また、主催だけでなく後援したウォーキングのイベントなどに出向いて、ノルディック・ウォークを紹介しながら一緒に歩いたりしている。

Q : 最近よく、「ノルディック・ウォーク」を耳にするが、弘前市民は何人くらい参加しているか。

A : 毎回、100人以上の参加がある。その他、ロマントピアでの水中ウォークや、冬場のスノーウォークにも参加があり、非常に好評である。

【主な意見】

- ・健康を目的として活動することは素晴らしいと思うので、嶽地区の地域活性化のためにも、常に人が歩くために訪れるような場所になってもらえるように、どんどん発信していただきたい。



・桜が咲く時期の桜並木は、弘前の観光地としてもっと宣伝してもいいような場所なので、県外からの参加者がもっと増えるように事業を広げていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 81.2 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		81.2

● 16 : みんな大好き「岩木山」から津軽の文化をもっと知ろう！～おやまシンポジウム～  
／津軽笛地域づくり実行委員会

**【質疑応答(抜粋)】**

Q : 今回のシンポジウムでは、写真や俳句などさまざまな人に興味を持ってもらえるような岩木山の見せ方や共有方法を取り入れる予定はあるか。

A : このシンポジウムでは、岩木山のふもとで息づいてきた文化についてだけでなく、県外の人から見た津軽への思いを聴いてもらうことで、岩木山の良さに自信を持ってもらう機会にしたいと考えている。我々は笛という切り口で、デモンストレーションを行ったりもするが、岩木山の写真というアイデアは取り入れたいと思う。

Q : 「笛」と「岩木山」の関係性について教えていただきたい。

A : お山参詣がそうである。ねふたやねぶたは地域によって囃子が違うが、登山囃子は各地から来ても囃子が同じなので奏で合うことができ、約 70 年ほど続く登山囃子コンテストが岩木山で行われている。

**【主な意見】**

・笛を後世まで残していくためには、演奏者と笛そのものの両方とも残していかないといけないので、いろいろな場所でこのような仕掛けをしていくことが大事だと思う。

- ・津軽の文化は地域の人たちがもっと誇りを持てるものだと、シンポジウムを通して伝えたいということなので、全国や世界から見られる環境になった時の、次のステップへの進み方を期待している。
- ・津軽の中から見た話と、外から見た話の両方がシンポジウムに含まれているのが素晴らしいと思うので、このシンポジウムでの気づきを来年度以降にもつなげていただきたい。
- ・笛を上手く吹く義務感を持ってしまうと、吹き手が増えていかないので、笛を吹けるのが当たり前、あるいは誇りに思えるような土壌を津軽全体に広げていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 82.7 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		82.7

#### ● 24：桜祭りとの関連観光事業化を最終目的とした、街の文化的観光素材・

魅力の再発見・価値化を目指したイベント活動事業。／サクラチルアウト実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：このイベントに人が来てもらえるように誘導する仕掛けを考えていれば教えていただきたい。

A：会場内は音楽とライトアップのほかに、イベントのコンセプトに合った映像を映し、視覚と聴覚の総合芸術的に空間を作り出したい。会場に来てもらうために、主要な店舗に広告を貼らせてもらったり、さまざまな媒体を使って宣伝していきたい。

Q：このイベントは、どのように市民が関わり、地域おこしといった意味で、どのように地域に関わっていくと考えているか教えていただきたい。

A：日常では目に付きづらい弘前にある素材や、弘前に住んでいるアーティストを紹介す

る機能がこのイベントにあると思うので、地元の桜を、今までとは違う概念で捉えるような機会にしてもらいたい。また、地元の人たちが主体的に参加して、地元の人との交流や新たな賑わいを創り出すことが目標なので、今年はその土台作りをしていきたい。

Q：一般の人が入りたくなるような空間を作るうえで、考えていることがあれば教えていただきたい。

A：コミュニティパークの奥側を開放したキャンドルのインスタレーションや、子どもが遊べる空間を作ったりすることを考えている。

### 【主な意見】

- ・さくらまつりの期間に同じ会場を使ったイベントが行われており、続けることで人気が高まったものもある。これまでは夕方から夜にかけてのイベントがほとんどなかったが、周囲に飲食街があるので、休んでもらう場にはなりやすいと思う。
- ・まちなかに人が集う場が生まれるような事業は、1年では結果が見えづらいが、若い人達が動くことで、今まで活動してきた層とは別の層の人たちが活動を始めるきっかけになるかもしれないのでいいことだと思う。
- ・若い人が中心に集まりそうな企画なので、お酒を提供する機会がある場合は、年齢確認をするなどの配慮をしていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 66.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合 計		66.4

3月27日審査結果（27事業のうち11事業）

採択とする事業	11事業
不採択とする事業	0事業

1次募集事業の審査結果（27事業） 3月25日～27日審査合計

採択とする事業	27事業
不採択とする事業	0事業